

2015年度 第63回質量分析総合討論会

日本質量分析学会 男女共同参画 第2回ワークショップ開催報告

Report of “MSSJ Gender Equality Workshop #2” in

63rd Annual Conference on Mass Spectrometry, Japan

日本質量分析学会 男女共同参画推進委員会企画として2015年6月18日(木)14:45-16:45に、つくば国際会議場エポカルつくばにおいて、テーマ:「イクメン」から考えるワーク・ライフ・バランスとして第2回ワークショップを開催したので報告します。

日本質量分析学会会長 和田芳直先生の開会挨拶、男女共同参画推進委員会 澤竜一委員長 からの趣旨説明に続いて、本企画コーディネーター 堀山志朱代氏の司会のもと、NPO法人コヂカラ・ニッポン代表の川島高之氏をお招きし、「なぜ、私生活の充実と仕事の能力は正の相関なのか?」という題で講演していただきました。

いつでもどこでも会社の命令に従って働くことが可能と思われていた無制約社員ばかりであった時代から、育児・介護などのため時間に制限のある制約社員が7割を占める時代へと移り変わり、国内の大手企業が、イクボス企業同盟 <http://ikuboss.com/tag/イクボス企業同盟>に共感参加し活動している現状、表題の「なぜ、私生活の充実と仕事の能力は正の相関なのか?」を、講師ご自身の経験を交えて具体的に分かり易く説明されました。私生活で子育てに関わり、PTA等の地域のつながりに参加することで、“視野、人脈が広がる”・・・多様性、“時間制限があることで段取り上手”・・・効率的、“PTA、地域とは異業種、異世代、子ども、異性と関わる人種のるつぼのため、会社では通じる共通の言葉、あうんの呼吸、上司命令がきかない”・・・対話力、育成力、組織運営力が高まるといった多面的能力向上のメリットがあると話されました。

また、イクボスになるための10箇条・・・『①理解②多様性③知識④組織浸透⑤配慮⑥業務改善⑦時間捻出⑧経営目標⑨自己WLB(有限実行)⑩業績達成』

<http://www.gender.go.jp/public/event/2014/zenkoku/pdf/fathering.pdf#search=‘イクボス10か条’>や上司の心得として社員全員WLB志向へ向けて即実践できることから説明していただきました。

“共働きなら共育て”が成熟国家では当たり前のこと、“イクメンは福利厚生ではなく、大きな経営戦力である”ことを改めて認識させられた講演でした。

講演に引き続き、川島氏に加えて、男女共同参画推進委員会委員長 澤竜一氏、男女共同参画推進委員会委員 岡征子氏をパネリストとして、会場からの質問にお答えするパネルディスカッションを開きました。会場からは、企業や大学でもイクメンは進んでいるのか。どうすればもっと家のこと、育児のことに意識を向けてもらえるか。また質問者(男性)の方の

ご自身の共働きの経験を交えて、お弁当作りもしたが、会社で仕事をしている方が楽なのですよ。といった質問や意見が出され、パネリストの方がそれぞれのお立場から意見を述べられました。和やかに盛り上がり、盛況のうちに大きな拍手をもって閉会となりました。

－ 日本質量分析学会男女共同参画 第2回ワークショップ －

「イクメン」から考えるワーク・ライフ・バランス

((公財)微生物化学研究会¹・(株)JCLバイオアッセイ²・田辺三菱製薬(株)³・北海道大学⁴・奈良女子大学⁵・奈良先端科学技術大学院大学⁶・(株)日立製作所⁷・大阪薬科大学⁸・武庫川女子大学⁹・大阪大学¹⁰・(株)資生堂¹¹・神戸大学¹²)

○澤 竜一¹・井上則子²・大橋徳子³・岡征子⁴・竹内孝江⁵・西川嘉子⁶・平林由紀子⁷・藤嶽美穂代⁸・堀山志朱代⁹・三宅里佳¹⁰・本山晃¹¹・吉野健一¹²

MSSJ Gender Equality Workshop #2

The Work-life Balance from the Viewpoint of “Iku-men”

(Institute of Microbial Chemistry¹, JCL Bioassay Co.², Mitsubishi Tanabe Pharma Co.³, Hokkaido University⁴, Nara Women's University⁵, Nara Institute of Science and Technology⁶, Hitachi, Ltd.⁷, Osaka University of Pharmaceutical Sciences⁸, Mukogawa Women's University⁹, Osaka University¹⁰, Shiseido Co., Ltd.¹¹, Kobe University¹²)

○R. Sawa¹, N. Inoue², N. Ohashi³, S. Oka⁴, T. Takeuchi⁵, Y. Nishikawa⁶, Y. Hirabayashi⁷, M. Fujitake⁸, S. Horiyama⁹, R. Miyake¹⁰, A. Motoyama¹¹, K. Yoshino¹²

Short Abstract: The Committee for the Promotion of Gender Equality in the Mass Spectrometry Society of Japan was established at the end of 2012. This is the 2nd MSSJ Gender Equality workshop. The theme of this workshop is The Work-life Balance from the Viewpoint of “Iku-men”.

Keywords: work life integration

質量分析に関わる研究者や技術者が、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現させるための諸活動を行う目的で、日本質量分析学会の委員会の一つとして男女共同参画推進委員会が2012年12月1日に発足しました。

2014年度の質量分析総合討議会では「質量分析関連企業におけるダイバーシティ・イニシアティブ」として第1回ワークショップを開催し、企業の多様な取組み、ロールモデルとなる活躍する女性を紹介いただきました。

2015年度の第2回ワークショップでは、子どもや家族への積極的な関わりが、仕事においてどのような効果をもたらすのか、「イクメン」から考えてみたいと思います。招待講演には、イクメン・イクボスの旗手 川島高之氏 (NPO 法人コジカラ・ニッポン代表) をお招きし、ワーク・ライフ・バランスからワーク・ライフ・インテグレーションへ発展する取り組み方を学びます。時間が限られる中ですが、パネルディスカッションも行ない、私たちがそれぞれの職場で行なえる取り組みについて、その問題点も含めて、一緒に考えてみたいと思います。

～・～・～・～ プログラム ～・～・～・～

司会 (コーディネーター) 堀山志朱代 (男女共同参画推進委員会 前副委員長)

14:45 開会挨拶 和田芳直 (日本質量分析学会 委員長)
趣旨説明 澤 竜一 (男女共同参画推進委員会 委員長)

14:50 招待講演 川島高之 (NPO 法人コジカラ・ニッポン代表)
「なぜ、私生活の充実と仕事の能力は正の相関なのか？」
なぜ、仕事のできる人は、私生活も重視しているのでしょうか？
なぜ、私生活の充実と仕事の能力には正の相関があるのでしょうか？
一方、女性の社会活躍が国策となっていますが、それと表裏の関係にある「男性の家庭や地域活動」も同時に普及させる必要があります。また、女性・男性共に仕事と私生活を両立させるためには、組織内制度の充実だけでは不十分で、職場や上司の理解が必須です。以上を背景に、この講座では以下2つの Part をお話いたします。

Part-1) 仕事も私生活も欲張ろう、私生活重視が仕事能力を高める理由、三方よし生活のススメ

Part-2) これからの上司像はイクボス、つまり部下の私生活にも配慮する上司

15:30 パネルディスカッション
パネラー 川島高之、澤 竜一 (微生物化学研究会)、岡 征子 (北海道大学)

15:40 閉会挨拶 竹内孝江 (男女共同参画推進委員会 前委員長)

ワークショップの趣旨及びプログラム

このセッションに参加された方に感想をいただきましたので一部を紹介します。

・学会での男女共同参画についてですが、私も最近勉強を始めたばかりで、いくつかの学会で共同参画の講演会などを聞かせてもらったりしたのですが、せっかくのいい内容なのに参加者の方が少ないのがとても残念です。

・今回の「イクメン・イクボス」のテーマはすごくいいな！と思いました。若い男性から年配の男性にももっとたくさん聞いていただけたらなあと思います。男女共同参画というと、子育てママの就業支援や、女性のキャリア形成など、女性の為のもの、と思われてしまい、幅広い世代に興味を持ってもらうのがなかなか難しいですよ。

・学会で男女共同参画企画をやっていただけると、私のような企業に勤めている人間のケースだけでなく、大学や国の機関など様々な立場の方たちのケースを知ることが出来てすごく有意義だと思っています。一般に開かれているような男女共同参画のセミナーですと参加者が幅広すぎて焦点が定まらないですし、会社内だけのセミナーの場合は範囲が狭すぎますし・・・『学会』という括りはちょうど良いのではないかなと思っています。

この他にもセッション終了時に、参加していただいた方々にアンケートにご協力いただきました。結果を集計し、今後の運営にいかしていきたいと思っています。

男女共同参画の活動は本格始動してまだ日が浅く、試行錯誤しながらの活動ですが、今後とも学会員の皆様の充実した人生のヒントとなるような企画・開催を目指していきたいと思っております。

今回お忙しい中、遠路はるばる足をお運びくださり講演していただきました川島様、パネリストを快く引き受けていただいた澤様、岡様、ありがとうございました。また、パラレルセッションにも関わらず会場に足を運び参加いただきました皆様方お礼を申し上げます。

最後に時間をやりくりし企画・準備から関わった委員及びその周りの方々お疲れ様でした。





ワークショップ開催風景